

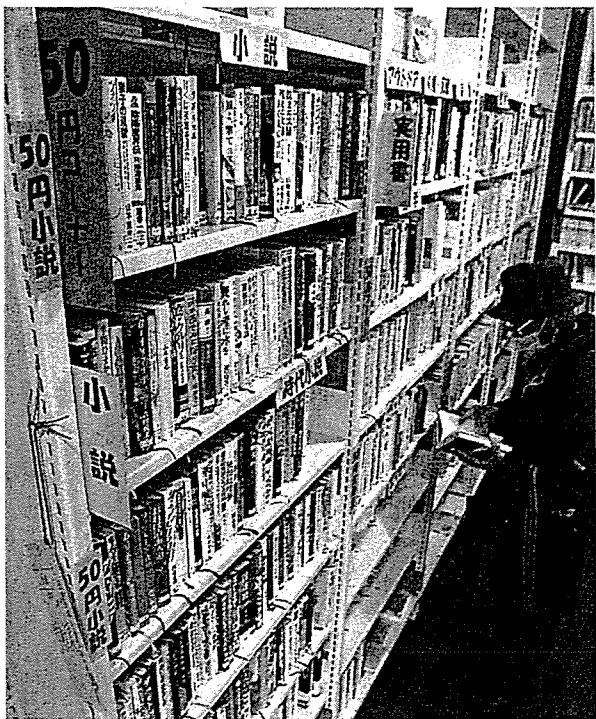
2018年(平成30年)1月31日(水)

朝日

# 図書館の本 つながる輪

## 阪南の市民団体

図書館に置けなくなつた本を売り、その収益で新たな蔵書を買う取り組みを、阪南市の市民団体が始めた。その名も「リサイクルブック『つながり』」。



阪南市立図書館によると、蔵書は約22万冊で満杯の状態。毎年約7千冊が新たに加わるため、同じだけの本が蔵書から外れる。市は1997年から、借りる人がいなくなつたり内容が古くなつたりして図書館に置けなくなつた本を無償で提供する場を設けてきた。ただ、年3回で、市民から「もっと増やしてほしい」との声もあった。

そこで、図書館で本の修理や読み

## 古本安く販売 → 収益で新蔵書

聞かせをするボランティア2団体が昨年4月、「本のリサイクル運営委員会」を結成。図書館に置ききれなくなった本を安く販売し、その収益で新たな蔵書を買う「つながり」を企画した。

図書館法で、図書館が直接本を売ることはできない。このため、図書館が置けなくなつた本を運営委に無償で提供。運営委が販売して収益で雑誌を買い、寄付するという形で同年9月から始めた。

本は、同市尾崎町の市立文化センター内の一室で、毎週土曜日午前10時～正午と午後1時～3時に売つている。文庫本や実用書、雑誌など約3千冊の本が並び、値段は10～200円ほどだ。これまでに1800冊以上、約9万円を売り上げた。

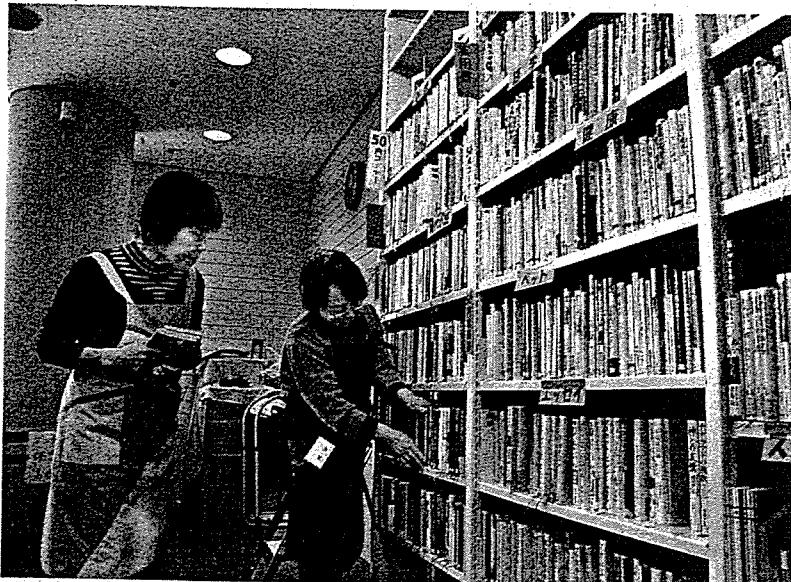
市内からのほか、堺市や岸和田市から訪れる人もいるという。阪南市の無職、今村充英さん(74)はほぼ毎週足を運ぶ。「絶版になつた本が見つかることもあった。古本屋よりも安いし、捨てられてしまう本が無駄にならず、新しい本を買うために役に立つのがいいね」と話す。

収益が増えれば、市内の幼稚園や保育所、小学校などに本を寄贈することも検討している。運営委の鈴木廣子さんは「この取り組みが少しでも本に親しむ機会になり、本を通じた交流の輪が広がつていけばうれしい」と話している。問い合わせは阪南市立図書館(072・471・9000)。(野田佑介)

秘書広報課（内線2506）

12/13

# 廃棄図書 販売の輪



図書館で使われない本や雑誌を販売するリサ  
イクルコーナー（阪南市立文化センターで）

市立図書館には市民らか  
0冊が寄贈されていて、だ  
ら、毎年3000~400  
が、傷みが激しいなどの理

## 阪南市と市民団体

阪南市立図書館と市民団体が協力して、図書館に  
寄贈されながら蔵書にならなかつたり、古くなつて  
蔵書から外されたりした本を安価で販売する「リサ  
イクルブック“つながり”」を、市立文化センター  
(尾崎町)で毎週土曜日に開いている。売り上げは、  
学校図書館や市内の公共施設に寄贈する本の購入に  
充てられる。

（上羽宏幸）

市立図書館では市民らか  
0冊が寄贈されていて、だ  
ら、毎年3000~400  
が、傷みが激しいなどの理  
由で、蔵書となるのは10  
0冊程度にとどまる。図  
書館では、傷みや買い替え  
で蔵書から外れた本とともに、毎年3回、市民に無償  
で提供する機会を設けていた。引き取られない本は廃  
棄処分になっていた。

市民からは「もとと無償  
提供の回数を増やしてほし  
い」との意見が寄せられて  
おり、図書館は要望を踏ま  
えるとともに、有料での提  
供も検討。低価格に抑え、  
収益を市立図書館や学校図  
書館などに贈る本の購入に  
充てて蔵書を充実させられ  
ば、市民を受け入れてもら  
えると判断、週1回のペー  
スで販売することにした。

ただ、図書館では直接販  
売ができない。このため、  
今春、図書館の運営をサポ  
ートしている市民団体「市  
みんなの図書館を考える  
会」と、読み聞かせなどの  
イベントを担うボランティ  
ア「図書館フレンズ」に「本  
のリサイクル運営委員会」  
を設立してもらい、同委員  
会が図書館側から本の寄贈  
を受けて販売する仕組みを  
つくった。

販売の場は、市が市立文  
化センター1階入り口付近

のレストランだった場所  
(約30平方㍍)を提供した。  
6台の書棚のほか、机、ワ  
ゴンに文庫本、新書、実用  
書、雑誌など約3000冊  
が並ぶ。特に傷みが激しい  
本は1冊10円、文庫や新書  
は30円、そのほかは50円の  
価格設定となっている。  
9月16日のオープン後、  
今月2日までの12回で計1  
355冊が売れ、6万23  
0円の売り上げがあった。  
「市みんなの図書館を考  
える会」の釣船弓子代表は  
「本を通じて、市民の新たな  
つながりが生まれる場にな  
れば」と期待。市立図書  
館の加藤靖子館長も「廃棄  
していた本が、市民の協力  
でまた読まれる機会に恵ま  
れる」と喜ぶ。

府内では、豊中市立図書  
館が2005年に同様の取  
り組みを始めた。庄内図書  
館に販売コーナーを週1回  
設け、毎年20万円あまりの  
売り上げがあるという。収  
益は図書館利用案内の多言  
語化や外国人家庭の高校入  
試相談会といった多文化共  
生、子育て支援事業に充て  
ている。